

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|--------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 課題番号 | 17H06115 | 研究期間 | 平成29(2017)年度 ～令和3(2021)年度 |
| 研究課題名 | 言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究 | 研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在) | 狩俣 繁久 (琉球大学・島嶼地域科学研究 所・教授) |

【令和2(2020)年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | | 評価基準 |
|--|----|---|
| | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究は、長年にわたって集積されてきた語彙に既存方言辞典の語彙を加え、集団遺伝学の解析手法によって視覚的で精緻な言語系統樹と言語地図の作成を目指すプロジェクトである。</p> <p>膨大な語彙データのDB化が完了しており、2020年夏に一般／研究者向けに公開を予定している。語彙数の多さや辞典ごとの表記ゆれを考慮すると、作業の困難さは容易に想像できる。研究計画調書に記載の計画に照らして、データ整備が遅れているものの、対策が講じられ新たな検索方式の発案に結びついていることから、研究の進展が認められる。また、音韻変化のプロセスを踏まえたクラスター分析が方言区分に有効であることを示すなど、多数の研究成果も上がっている。公開間近の一括検索機能付きDBを有効活用することによって、琉球列島全域の蓋然性の高い言語系統樹・言語地図が完成することを期待する。</p> | | |